

活刷

那波列翁傳初編

一

特別
又2
4764
1



新松王像



新松王像

新松王像

門 又 2
號 4764
1

又 2
號 4762
1

田原松岡氏清風館活字板

邦波列翁
傳初編三冊



早稲田大學
籍 26.6.15
藏書

佛郎王歌

山陽秋葉子采

佛郎王、起何系、大西澤古、白薩精肥、為先王
 付認、昭陽王、猶能、志、歐、羅、東、拓、建、於、以、此、為、中
 央、國、內、游、手、收、編、り、兵、營、妻、子、志、越、之、猶、極、為、統、帥
 為、機、流、退、防、進、互、持、擔、亦、向、于、奇、之、言、方、指、其、部
 羅、也、故、頑、信、志、謀、賊、惟、初、從、王、覺、有、之、稱、稱、此、也、
 我、不、能、亡、汝、之、以、之、旗、鼓、尚、進、矣、之、其、傳、事、之、誠、推、敵
 下、日、之、言、已、載、及、國、志、拍、那、羅、也、魚、池、之、進、海、河
 料、大、言、下、地、之、史、強、之、子、八、子、凍、且、僅、運、返、校、實、亦、可
 聖、馬、肉、才、寸、日、光、輝、王、由、言、亦、不、者、佛、郎、家、活、已、衆、降

何妨、予、騎、降、敵、之、亦、於、成、故、之、阿、墨、只、五、考、及、成
 寅、案、來、吾、遊、騎、陷、遭、逢、之、聖、皆、以、其、得、自、之、在
 陸、豫、之、生、之、食、之、免、死、之、不、忘、君、之、免、何、國、義
 之、食、如、根、勇、夫、之、用、貴、於、防、又、不、見、禍、福、如、繩、何
 可、常、窮、之、蹟、志、每、自、強、方、之、之、海、休、亦、權、何
 古、龜、運、被、西、三、他、約、記、矣、傳、在、鄉、於、免、教、業
 逆、美、業

右樺鄉摹波利稔王像。原本係舶來洋畫。蓋王壯時
 之肖云。樺鄉名武貞。容齋菊池翁之子也。僅踰弱冠
 而能傳父業。善繪事。嘗為人寫波利稔王像。工緻精

妙幾不讓原圖。余常欲乞摸一本。而樺卿去世。不復
可得而求焉。每念及之。不勝憾悵。因就容齋。索其遺
跡。而得此圖。蓋其粉本。草々不經意之作。固不與前
所觀極精緻者同。然不數十筆。而意色神采。煥發可
掬。良可賞也。人未知樺卿之善畫。余懼其湮晦。乃命
鐫之。錄山陽賴氏佛郎王歌于後。以代贊辭。附諸活
刷。波利稔王傳卷首。以公于世云。

丁巳春二月 臺川松岡權識



竹邨石川正路



附言

此那波列翁傳ハ小關三英ヲ蘭書を譯したるかり其
原書は和蘭國のリンデンといふ人の撰しむる者ト
ふん云ひける三英ハ出羽國の人なり名ハ信義號を
と篤齋といふ三英ハその字ふて俗稱ともなせり々
り幼きより足病有て行歩も思ふまじらざりえれ
ハ數多の年月家外に出てす只書讀むより外の業も
無し蘭學志深かりけれと邊境なれば其書之く
く有合ハ一卷二卷からてハまゝと看る物ふしそれを
明暮練反し見つゝ年ころ厭もせて在ける江戶
出で種々の蘭書共と讀むに故郷より同一書あり

附言

死月波多傳 卷一
こゝひ見て熟く習覺りたるをもて何處の書も打解
けて讀れむといふふとふりけり故に世の蘭學す
る者ハ様々の冊子もて來て其教を受け蘭書を持
人ハ種々の物見せてこれら翻譯を請ひかゝる程
に日々精く月々博くかりて遂にいそしき蘭學
者といわれりけり醫師はあなれと少時よりひさ
さち書よむとの事務として療治の事ハ心を寄せ
さりし江戶に在りたる後人の乞ふまゝに止事なく
病を療するに年來書の上よて明らめたるを以て物
ずれて様々の驗も多りけりとなん其頃蘭學ハ開
けりされと今のやうに文典かといふ書もか々ハ

ひさふる不彼國の言語は多く識しつゝ何處の書に
涉りて物の理事の趣をも辨へおのけら心不染て
其法とも知きる事なりけり去りてハ渡來れる
書も多りられハいと難き業なりとんふ三
英の彼文不倣て作りし物派見るに文典の格不叶ひ
て露違ふことなりと今の蘭學家のいへりさてハ此
人ハ彼學に深くして彼國の意詞を己か物と手内不
握得たる仕業ハ尋常の人の掛ても及ふ處きに非る
を思量るへ今西洋の學をも立させられ新なる好
書も妙なる術を彌益に出來て開けよひらけたる世
不在らましうはと惜み歎ある事ハこぞ抑余十六

七の頃なりけむ頼山陽か作し佛郎王歌を讀て那波
列翁の事を初て知りていこしと思ひつれともさ
そり意ふもせて在り侍る其後有志の人ふも交り
物の書をよ見て外國の事と見聞して海防の筋
ふ心おくおつけてハ夫の那波列翁の事實をも委
敷知らまなくともひあるふ十九年そかり前小江
戸小物せし時三英の此傳を見よこやを待て那波列
翁の才學智勇ありて能く人を用ひ能く人を服し雄
略の大なる杯を知り將彼國、乃人情政治軍旅の趣
をま見まハ見ハし海乃守せん爲ふ心得へた書也
迎頓て寫置されし此本纔ふ勃納把爾的の會治乃第

一の執政とかりて壹度軍を以終諸國と和睦せし段
迄ふらてハ無し且書様も志とけ無て何如そやれ
ふ節も寫誤れれふらむと見ゆれ所もありてあ
されハ譯者の許ふべき全く志て正しき本ハ何ら免
往て借りてんと思ふふ三英ハ早世ふ無くふりにけ
り斯て彼方此方に求めとせ皆我が本と同物ふて善
本迎ハ更ふ無しこはそつらに譯しこる計の草稿を
秘さりせん其寫の用とれおて本と人ふ見はへく共
思ハぬなめれハ全く正しき者の世に有へくもあら
さふり抑三英故郷ふ在し時より蘭書の那波列翁傳
を持ちしを夜晝とかく讀返し考へるへし杯痛く心

と碎て居たりとそさ然とつづく翻出さ然計不
て其業を成れりて世ふ在らさりそつとらき三
英の志遂けとらんよハ何如小此書の世の實ともあ
らまし者とと歎きとも爲方なく年比打過る程ふ近
來外國其の更に渡來て己の志願事かとうるさき
まで申しよつたてハ畏き 仰言有イ内外の守嚴あ
る預め軍事に怠らさりめ給ふ 御世明らけ
道廣き時一をれハ善事ハ彼を取て此に調へ今は
軍も火伎からてハ叶ハ一と家每人ことに思ひか
て大方軍陳の法も大砲小銃の器も術も改りて競勵
む事とそなれりや因て竊ふれもふ尔彼の西洋乃

國、此今の如く彌増し軍のすち火のわざ巧し精
くかれりやるハ彼の紀年まで十七百年の代の末ハ
方より八百年の代の初乃比拂郎察國の大亂れ
より志て勃那把爾的世子起りかへて歐羅巴の國
是よかどつらひて戦争多りければ軍も便利なる
物種、出來て遂に軍陣の制も軍器ふとも皆改るた
る不原つけるよ一殊に那波列翁ハ兵を用ふること
に勝れて類をけれ古今の三大將の一人とて何れ
の國も畏と稱へさるハか一とらん然きを今海外の
籌を運し夷等に當らん迎彼ら軍の情を知り彼ら軍
の法を取り彼ら軍の器を用て我ら武威を増んふハ

其原つける時の戦ひ其稱ふる人の軍の趣以知り心得るこぞ先なるへ多きはさるる陣法火伎ハさよかく便利なきともいふふる不他の國振を用ひ其習はしにつけていつしめも心ふ添めハやもすまハ偏様ふかり行て占より傳ハさる孫吳韜畧も今ハ後れとり言ひ萬國ふ愈りていとけふ銃槍刀等の兵も今ハ益ふと思ふもいぬきと那波列翁の軍の様を見るに其戦畧孫吳をとの外ふ出たれハなく又其戦闘の勢も若く我々雄々敷武士をして槍刀を用ひしめとらんとい日醒しき捷をも得可らんとおもふ節の餘多あるをや余かふけなくも世人ふ

是を辨へさせんと切し思ふものから那波列翁の事をとめさまかして世に其傳を譯したる全き畧有やと尋らば一代記畧傳かといふ書あハや一度は乃者なれそその事乃趣を見るふ足らぬも未だ三英の譯本乃外はかえらるる委數を以て見すいてや此傳草稿はまれ何れまれ其事乃有様を知らん便とせんにはよるれも文乃整はさると詞乃安かば志きとよさのこ拘ハる趣きやハかにかくに三英精學此才も年ころ心をそめ思を盡せし者故只書きにかきとるちから事の趣ハ能く心に得らるるも頼て其儘これと活字板以て摺卷ふして世に弘め物する事

やハな一つ三英若一地下不在是と知らは帳中此
秘物を出して人を辱しめたりや余は罪せんをされ
共余ハよと三英年来れ心つる一乃世を願き以て
て空くなり果んハいとモ口と一聊に其手澤の跡
と残りて世の用になさんやれもふ也クシ

○此書前ふも云ふ如くやまをれ草稿なきハ譯様を
定らひ安りかほしを和語あり漢語あり雅言あり俗
言あり辭の足らざる文の整ハざる有り又疑を欠る
も原語のまゝにしるも有きやふくは是を改
てハ原意を失ふ事も有ん其儘おま中ハ寫誣り
とかなるへいと覺しき節ハ他本に校合せ又自らも

考へ正したる所もあといまも盡さず

○地名人名其外蠻語其乃中ふいかふそや思ふ處を
此彼あは共その原書に校合して後ふ正してんあし
○年止此書を看又他本に校せし時なと折ふ觸て見
聞せし事とも人の説己の考をも思よるまゝに書加
へ置し所問あり壯時ふと書とるなと多しハ
ハひら事も有んと思へと今更棄るも惜くて其ま
注よ入置しこれハ○を加て譯者れ自註ふ分つ見む
人謬ある事をハ正し給へ猶書加へまほしき節も
有れとも事繁くて暇なり候も止ぬ
○譯語の傍に其蠻語又漢語の傍ふる俗語かと活字

それハ傍書つくるに便からされハ其下の注とせり
是ハ○を加へず

○命令書簡ふと原本ハ漢文様ふ譯しころも間々
あれ共活字にて訓點付んハかゝるハ皆押並て假
字と雜へて直不讀る、様よあしつ

○活字板排る時の誤錯漏脱ふと又刷る時ハ墨れ付
うて字は缺たるなと改て第三卷の末に識誤を附く
○反舌ノくも此書の三卷計にして末の成らざるこ
ろあるぬ事なれ此頃此傳の原書を借得これハ是れ
譯さりめて次々二編三編と活板もて摺卷ふして
世ハ弘く出すへし

清風館主人

那波列翁勃納把爾的傳一

小關三英遺藁譯本

那波列翁勃納把爾的ハ西洋紀元一千七百六十九年
我ガ明和六年 第八月第十五日ヲ以テヨルシカ島
己丑ニ當ル 譯ノ所謂ノ内アヤシオト云フ地ニ生ル父ヲガルレ
哥而西加 スボナハルト云ヒ母ヲヲチチアラニヲリト云
フ其父曾テ羅瑪ニ在テ市街法令ヲ學ヒヨルシカ人
ガ拂郎察及ビゲミアト合戦アリシ時ハヨシカト其
二戦ニ加ハリタリヨレンカ島既ニ奪取ラル、ノ後
ハチポレヲシガ父ハヨリト和睦セントス按スルニ
ヲランニ降ラズヨボレヲシガ父 其伯父之ヲ支フ
ハヲランニ降リタルナルヘシ

カ島ノ諸人拂郎察國ノ苛政ノ惡ミ之ニ叛ントノ企
專ノリ是ヨリ前ニモ此島度ニ拂郎察國ニ向ヒ戦ヒ
シカドモ利アラズシテ島中ノ貴豪戦死スル者多カ
リキヲホレヲシ幼心ニテ此形勢ヲ見種々ノ方策ヲ
考ヘタリ具伯父拂郎察國ノ虐政ヲ嘆息セルヲナホ
レヲシ傍ニ在テ之ヲ聞ク毎ニ共ニ無念ノ思ヲ懷キ
クリ或時其伯父自ラ拂郎察國ノ辱シメニ遇ルヲア
リケレバナホレヲシ伯父ノ前ニ近ヅキテ嗚呼伯父
上ヘ早ク事ヲ興シ玉フベシ凡ソ人ト事ヲ謀ラバ何
事カ成ラザランヤト云リボナバルテ幼ヨリ拂郎察
國ノ羈係ヲ離レラゴルシカ島ヲ獨立ノ國トナサン

トノ志アリ又其長上ノ嘗テ戦死セルヲ傷ミイカニ
モシテ其仇ヲ報ンモノヲト感激メ特ニ古今軍器ノ
書ニ意ヲ委子ケリボナバルテガ一族父ノ代ヨリシ
テ此島ノ太守マルクイスデマルブーフ名ト殊外ニ
親交シタリ其父死後ニ至テモマルブーフ相替ラ人
此一族ニ惠ミヲ加ヘタリ又ボナバルテガ材氣不凡
特ニ兵家ノ學ニ執心ナルヲ見テ大ニ之ヲ愛敬シ其
費ヲ出メガムバク子アラシクノ地名ノブリーン子地名ノ車
費ニ遊學セシム即チ一千七百七十八年ニ其本國ヨ
ルシカ島ヲ發足シブリーン子ニ赴キケリ
ボナバルテ一千七百七十九年ノ初ニブリーン子ノ

カ島ノ諸人拂郎察國ノ苛政ノ惡ミ之ニ叛ントノ企
專ノリ是ヨリ前ニモ此島度ニ拂郎察國ニ向ヒ戦ヒ
シカドモ利アラズシテ島中ノ貴豪戦死スル者多カ
リキヲホレヲシ幼心ニテ此形勢ヲ見種々ノ方策ヲ
考ヘタリ具伯父拂郎察國ノ虐政ヲ嘆息セルヲナホ
レヲシ傍ニ在テ之ヲ聞ク毎ニ共ニ無念ノ思ヲ懷キ
クリ或時其伯父自ラ拂郎察國ノ辱シメニ遇ルヲア
リケレバナホレヲシ伯父ノ前ニ近ヅキテ嗚呼伯父
上ヘ早ク事ヲ興シ玉フベシ凡ソ人ト事ヲ謀ラバ何
事カ成ラザランヤト云リボナバルテ幼ヨリ拂郎察
國ノ羈係ヲ離レラゴルシカ島ヲ獨立ノ國トナサン

軍費ニ到來ル此軍費ニハ尤練達ノ學師ヲ止置テ書
生ヲ教導セリ古今ノ文學歴史地理ノ學ナリスニ量測
並ニ量地其他軍事ニ關係スル諸學藝爰ニ具ラザル
ナシホナハルテ是ニ於テ大ニ其宿志叶ヒ日夜怠
ラズ勤學セリ費中ノ生徒百五十人餘ノ中ホナハル
材氣最勝レ其舉動進止都テ人目ニ着クヲ多シ
ホナハルテ同學ノ書生ニ對シテ曾テ彼此ノ隔ナク
同等ニ相遇セリ格別懇切ニモセズ又疎遠ニモセズ
若恒沈黙メ一室ニ引籠リ人ニ接スルヲ好マズ是
俄ニ山野ヨリ斯ル稠人ノ中ニ來ル故然ル歟ト思フ
人多シ若輩ノ遊戯ナド大ニ嫌ヒ未曾テ遊劇ノ中ニ

加ハリタルト無シタマニ少年等ニ遊劇ノ場ニ行
當レバ大ニ之ヲ詈諫ルト度ニナリ或時學師等ホナ
ハルテ剛臆ヲ試ントテ之ヲ劫カセシニホナハル
テ少シヒ辟易セズ反テ之ヲ嘲弄シテ樂ミトセリ又
同學ノ書生等平生ホナハルテニ詈諫ラレタルヲ無
念ニ思ヒ數千人黨ヲ結テホナハルテニ襲掛リケレ
バホナハルテ物トモセズ散ニ打返シテ梁等ヲ穿
メタリセ後ハ敢テ近ツ者トナカリシトニ
ホナハルテ夙ニ其本國ヨルシカ島ヲ獨立ノ地ト爲
シトノ志ヲ懷キ常ニ其羈辱ニ遇ルヲ恥ズ或時書生
等ヨルシカ島終ニ拂郎察國ニ并セラレン杯トアホ

一ハバルテヲ嘲リテレバボナバルテ此言ヲ以テ深シ
 トセズ忿怒メ曰ク吾カヨルシカヲ以テ拂郎察ノ羈
 係ヲ絶テ獨立ノ地ト爲シテ近キニアリト云リ
 一ボナバルテ軍蠻ニ入ル最初ソノ勤勉比ナシト雖モ
 其通例ノ學業ハ敢テ人ニ勝レテ升進セズ又羅甸ノ
 文辭ヲ好マズ只務テ國辭ノ書ヲ讀ム是此人ニ在テ
 一タト解スベカラザル一事ナリシカ此人本國ヨルシ
 一カ鳥ヲ以テ不羈ノ國ト爲シ大望アレバ其學皆爰ヲ
 一玉トメ早ク之ヲ實事ニ施ントス故ニ迂遠ノ學ハ總
 一テ務メズト見エタリ其第一ニ務ル所ノ學ハ則チ
 一スモン地測量列陣ノ法并ニ攻城非守ノ術等也又

古今ノ歴史ニ博涉シ中ニ就テ世ヲ改革シ大勲ヲ顯
 ハセシ非常ノ人ガ一サル○カ一サルハ蘭語アリアレ
 キサン○漢譯等ノ諸傳ヲ嗜ミ其人ヲ欽慕スル
 一限リナシ

一ボナバルテ日夜巳カ室ニ引籠リ獨座沈黙シテ諸學
 藝ヲ工夫シ敢テ人ニ接セズ此軍蠻ニテ方寸ノ地ヲ
 一分テ諸生徒ニ與フボナバルテ同學生ニ議シテ二人
 分ノ地ヲ得タリ勤學ノ餘力ニハ自ラ樹木ヲ植テ庭
 園ヲ築キ又樹籬ヲ嚴シク繞シテ以テ他人ノ漫入ヲ
 防ギタリ是等ノ費モ皆マルブーフノ給ヲ仰ク云ノ
 一ボナバルテ植ル所ノ樹木二年ノ後漸ク繁茂メ閑寂

ノ居トナリ又爰ニ於テ騷劇戲諺ノ思生人來ル一
得ズホナバルテ此閑地ニ大ニ志ヲ養ヒ其學ヲ工夫
シ只向其身古ノ英傑ニ勝ラン一ヲ欲ス曩中ノ監官
及ビ同學ノ書生等ホナバルテガ深慮大謀ハ少モ知
ラス皆其舉動衆ニ異ナルヲ憎ミ或ハ之ヲ嘲笑ヒ或
ハ通常ノ人ニ倣ヘト強諫ノモホナバルテ依然トメ
其操ヲ改メズ人ノ譏譽ハ曾テ頓着セザリシト也
ホフバルテ時トシテ猛威ノ振舞モ之アリキ此曩中
毎年拂郎察國ノ始祖コ一デウイ王ノ誕日ニハ大
祭有テ此日ハ諸生徒ノ遊戲放逸ヲ免シ何如ナル罪
科ヲ犯テモ人抵ハ罰スル事ナシ是ニ依テイツヒ大

變ヲ引出ス一少カラズ祭ニ先ダツコト十四日巳前
ヨリ十四歳以上ノ書生等ニスチパ_上ビスト_上ル_上ル_上
各_上ノ_上ヲ_上配_上賦_上シ_上各_上ヲ_上シ_上テ_上若_上干_上斤_上ノ_上火_上藥_上ヲ_上買_上求_上メ_上リ_上セ_上
祭日ニ當テ火炮ヲ放タシムホナバルテ此曩ヲ退ク
年ノ祭日ハ即チ一千七百八十五年ニシテ書生等ノ
放逸尤募リケレバホナバルテ例ノ如ク獨己ガ舍ニ
引籠テ勤學シ遊戲ノ伴ニ加ハラズ他ノ書生等ハ相
爭テ遊戲ノ設ヲ管ミ一統ホナバルテガ衆ニ違テ遊
戲ノ設セザルヲ憎ミケリ此日ノ遊戲ハ面々ノ舍庭
二種々ノ火花ヲ仕カケ互ニ見物サスル一也一書生
ノ舍庭ニ仕懸シ火花ノ側ニ二斤餘ノ火藥ヲ充タル

筒筒アリケルカソレニ火移テ大事出來タリ是ニ於
 テ手足ヲ碎ルミモアリ或ハ面ヲ焼ル、モアリ皆隣
 舍ノ樹籬ヲ打倒メ逃去リ又此時ホナバルテガ余ノ
 庭ニモ界ヲ破リ來ル者アリケレバホナバルテ有合
 フ歟ヲ手ニシテ出來リ亂入ノ者ヲ打拂ヒ猛火ノ方
 へ撞ヤリタリ猶ソノ舍園ノ損ジ破ラレタルヲ慍ル
 ノ餘リ礫ヲ取テ逃ル者共へ雨ノ如クニ擲カケシカ
 バ之カ爲ニ劍ヲ得タル者多シホナバルテガ今日ノ
 振舞平日ノ温和懇篤トハ人ニ相違セリ是書生等ガ
 法外ニ遊戯ニ耽ルヲ憎ミ向後懲シメノタメ斯ハ致
 セシナルベシ嘗テホナバルテガ母ノ方ヨリ使ヲ遣

シテホナバルテガ安否ヲ尋子ケレバホナバルテガ
 返書ニイハク小子常ニ劍ヲ横タヘテホメリス未ヲ
 懷ニシ天下ヲ横行センコトヲ願フトシ
 一千七百八十五年ニ拂郎察ノ官口ナウルト
 人名インスベクテルゼ子ラルノ官ヲ兼テ此軍醫ニ到
 リ書生ノ學ヲ督スホナバルテガ材學不凡ヲ鑒拔メ
 拂郎察ノ本府バレイス軍學ノ學士ニ撰ブ此時借ニ
 撰バレテバレイスノ軍醫ニ移ル者多カリキホナバ
 ルテ己コバレイスノ軍醫ニ到リ特ニ其砲術ニ練達
 セルコト并ナクウスキンゴニ殫精ナルキコエアリテ官
 ノ嘗試ヲ蒙リ上下一般ニ其賢能ヲ和シケリ拂郎察

國改革ノ少キ前ニ當テロギメントトノ名トノ砲軍ノ和
モシトトノ名トニ擢テラル

ボナバルトテスデニ此屯軍ニ在リ暇日諸友ト連合フ
テロイラトニ名トノ劇場ニ寓日ス此時トルレムトテルト人

ノ狂言條ヲ行ヒケレバアレイヘイトアレイヘイト
敵國ニ打勝テ不羈ノ國トノ聲發スル時ボナバルト

ナリトタルヲ祝スルノ辭也トノ聲發スル時ボナバルト
覺エトヤトヤト然トノ意トアレイヘイトアレイヘイト

呼ハリケリ其時側ニ在ル友人ボナバルトテガ衣ヲ引
キ爰ハ強霸拂郎察王ノ畿内ナルゾ妄言シ玉フナト

私語ケレバボナバルトテ心ニ悟リ黙止ケリ
ボナバルトテ此屯軍ニ在ルト幾バクモ無クシテ拂郎

察國ノ顛覆ニ遭リ是ヲ當今歐羅巴總洲革命ノ亂ト

和ス此時ニ至テ民虐政ニ抑屈スルト極リ以テ爰ニ

及ブ是自然ノ勢ニメ天ノ令スル所トレバ強テ之ヲ

禦停ム可ラヌ四方ノ英雄豪士踊躍シテ不羈ノ世ト

ナルヲ喜ヒ百姓奮起メ再々ビ正明ノ治定ルヲ俟ツ

ボナバルトハ元ヨリ王家ヲ恨ミ叛シントノ企メアレバ

時トフルカナ時トト大ニ勇ミ拔羣ノ功ヲ立シトスボナ

バルトテカ意謂ラク大丈夫事ヲ興シテ成ラズンバ寧

口死シテ大名ヲ遺シトト已ニ此時ニ乘ジテ一方ニ割

據セントスルノ志アリ其同志ノ諸友ニ期トト語リケ

レバ諸友舉テボナバルトテガ事ヲ甚促スト危シ謀メ

ケリ

此時拂郎察國內大ニ亂レ一揆處ニ蜂起セリ中ニ
 就テグレノベル拂郎察邊尤甚シホナバルテ一ノコ
 ムマン大將ト共ニ命ヲ受テ其亂ヲ平ゲンカ島ニ
 爰ニ到リテリ一地ノ城王百姓等ニ圍レ短兵已ニ接
 シ危急ノ處ホナバルテガ謀智具急難ヲ救ヒタリボ
 ナバルテ城主ノ殆ド殺レントスル處ニ急ギ馳ヨリ
 一揆等ニ向テ曰ク汝等拂郎察國人ナリヤ否ヤト城
 主ヲ殺ントスル者此問ヲ怪ミ暫シ止リタリホナバ
 ルテ再タビ言フ汝等拂郎察人ナラバ必ズ敵ヲ宥メ
 ジ拂郎察人ハ同ヨリ寛裕大度也ト城主ヲ殺ントス

ル者乃チ引去ル

ホナバルテ一千七百九十一年ノ末ニ其本國ヨルシ
 カ島ニ歸ル此時拂郎察國兵亂大ニ募リ其國ゲメ
 子ベスト國中已ニ王ヲ叛キ奇合テ一種ノ會方ノ兵
 再タビサルジニ島ヲ討ツホナバルテハゲメ子ベ
 ストニ加ハリテコルシカ人ヲ率井マタレナ島ニ著
 シ此島ヲ攻取テ拂郎察ノゲメ子ベストノ屬島ト
 知リ然ルニホナバルテガ兵士島合ノ衆ナレバ此地
 ヲ守ルニ便ナラズトテ速ニ兵ヲ引テコルシカ島ニ
 歸レリホナバルテ元ヨリマヲト上交深カリキ此時
 ハヲトハゲメ子ベストヲ放キ拂郎察土ニ與スル

ノ聞工有ケレバボナバルテモ王家ニ與黨入ルノ疑
 ヲ得テコムベシントミセル命ヲ下シテボナバル
 テヲ捕ヘシムサレ氏ボナバルテ名ゲメー子ベストヲ
 叛クノ意ナキガユエニツヒニ容サレタリ此時英吉
 利亞人ヨルシカ島ヲ奪ント謀ル拂郎察ノゲメー子
 ベスト方コテハ先ヅトウロシ島ヲ取返ントシテ英
 吉利亞人ト戦ヲ交ヘケリボナバルテ乃チ其族ヲ率
 テヨルシカ島ヲ去リ乗船メ拂郎察ニ趣キトウロシ
 島ヲ距ルヲ僅ニ數里ニシテ留着シゲメー子ベスト
 方ノ兵ヲ援テトウロシヲ攻ム此トウロシ一旦英吉
 利亞ノ屬國トナルト雖モ國人元ヨリ英吉利亞ニ心

服セズ劫テ恨ヲ含ミケレバ英吉利亞ヲ叛キ味方ニ
 降ル者多シ且ツ英吉利亞人ハ只海賊侵盜ノミニ長
 シ陸戦ニ拙ケレバ忽チ敗軍メ此地ヲ退キ又ボナバ
 ルテ砲軍ノ大將トシテ此寄手ニ加ハリ處ニ要害
 并ニ外城ヲ奪取タリ今度ノ勝利ハボナバルテ大ニ
 方アリ
 拂郎察ノゲメー子ベストノ軍既ニトウロシヲ奪取
 ルノ後ボナバルテ尙ホ處ニ要害城ニヲ固メサセ
 其身ハ意太里亞國ノ陣所ニ發向ス按ズルニ此時歐
リ亂ニ關係ス拂郎察ノゲメー子ベスト方爰ニモナ
ヨリ意太里亞ニ兵ヲ遣シ戦ヲ交ヘシナリ
 地名ノ近處ニ一高塔アリ此處ハ古昔ガ一サル古ノ
 名將

名曰ビユン河ヲ渉ル時ソノ將士ニ誓シ舊跡也ホナ
ハルテ意太里亞ノ陣所ニ在ルノ日時、此處ニ徘徊
シ古昔ヲ懷ヒ英風ヲ欽シ悲歌慷慨シテ懷古ノ歌ヲ
賦ス其辭ニ曰ク

維昔シ加涉爾其大帥ヲ此土ニ留ム堂、齊ニ孰カ
敢テ之ニ抗ラン君士民ヲ愛スル一傷ムカ如シ身
國難ニ死スル一歸ルガ如シ豈士民ノ血ヲ以テ己
ガ利ノ爲ニ灑ンヤ
乃チ其版肱ヲ集テ之ニ誓テ曰ク嗚呼昔ガ士今余
此河ヲ渉ラバ勝チ日前ニ在リ焉ゾヒム可ンヤ
乃チ自ラ馬ヲ躍ラシテ河中ニ投ズ顧テ呼テ曰ク

吁吾ガ諸友來續ケ吾カ闡ヒニ投ズ命天ニ在リ事
既ニ決ス猶豫スベカラヌ吾ガ諸友來續ケト

一千七百九十六年ホナバルテバマイルロ^{六丁人}
ノ長トナル其翌年ノ初ニハ意太里亞陣處ノ^{アリ}ガ
一^{六千人}テ^{ノ軍}隊將ニエラバル然ルニロブレセンダ
ン^名ト^名名^人ヘ^フフロイ^人ナル者ホナバルテ叛逆ノ企アリ
トテ之ヲ執ヘシメ其行李ヲ開キ改ルニ軍法ノ説又
ハ何ノ障モナキ書牘ナリケレバホナバルテヲ容シ
タリ然ルニ又ホナバルテヲ讒スル者多ク之アリテ
ホナバルテ將校ノ任ニアラス歩卒ノ長タルベシト
官ニ一訴セリホナバルテ之ヲ聞テ急キ拂郎察ノキ

都ハレイスニ馳下リ已ガ罪ナキラ訴ヘケレモ兎角
 辨明セラレズ是ニ於テ都爾格ノ王都ヨンスナンキ
 フポロシニユカントノ願書ヲゾ差出シケル然ル所
 ケメー子ベスト方ノ諸官人等ホナバルテガ材能智
 略拔羣ニシテ國家ノ用タルヲ兼テ知リヌレバ強
 ア之ヲバレイスニ止テ時節ヲゾ侍ケル是ヨリ先キ
 數年間バレイス府中争亂斜ナラス一千七百九十五
 年ノ末ニ稍々平治セリ是ニ於テケメー子ベストノ
 諸人等相議メ拂郎察國ノ舊法ヲ改メ新命ヲ下シテ
 同後其法ヲ守ラシメ國人ヲ鎮撫セントス然ルニ國
 人其法令ヲ承ルヲ肯ゼズ相徒黨シテ兵ヲ興シ其

勢已ニ人ナリケレバケメー子ベスト方ニテ諸大將
 ヲ撰ビ討手ニ差向ク；リホナバルテモ一ガノ大將
 ヲ承リ先ヅ其智畧ニテホント子ウフ九橋ノ義支ヘ徒
 黨等ノ相合スルヲ妨グ此時バレイスニ在ケル王族
 大臣等モ皆逆徒ニ一味シテケメー子ベストノ法令
 ニ從ハズ其中ニハ軍戰ニ巧者ナル輩モ加ハリテ中
 々容易ニ鎮服スベクモ見エザリケレバ大將ハルノ
 ス大ニ當惑シホナバルテニ謀ルホナバルテカ一計
 ヲ進ム是ニ於テ不服ノ大臣ノ邸宅ノ前ニ夥多ノ大
 砲ヲ陣列セシメ牌ヲ建テ署メ曰ク今度ノ大法ニ從
 ハザル者ハ外出スルヲ得ス若シ外出スルヲア

バ忽ニ打殺スベキ者也ト爰ニ於テ大臣等悉ク降參
 ヲ其法令ニ從フヲ誓ヒ又「ボナバル」テ此日ノ謀畧
 按羣ニ依テ「ヒシ」歩卒一萬人騎士ノ總督ニ
 擢テラル兼テ中國軍ノ大將トナル是ヨリ後人益々
 「ボナバル」テが大度アリテ心剛ニ其材量リナキヲ
 知リケレバ一千七百九十六年ノ初二意太里啞ノ陣
 處ノ總大將ニゾ進ミケル其時一友アリ「ボナバル」テ
 ガ尙ホ若年ナルヲ氣遣ヒニ思ヒ「ボナバル」テニ向テ
 吾子一軍ノ總將ニハ尙ホ覺束ナシ意太里啞ノ敵方
 ニハ軍事ニ老練セル大將雲ノ如シ吾子之ニ對メ戰
 ハミ恐ラクハ危カラント慇懃ニ忠告シケレハ「ボナ

ハル」テ笑テ之ニ答テ曰ク吾ガ齡苟ヒ一歳ニ過ルバ
 ハ足レリ若年ニ非ズト○此語解ス可ラズ恐ラクハ
誤脱有ン今姑ク房寫ニ依ル
 「ボナバル」テ意太里啞ノ陣處ニ發向スルノ少キ前ニ
 故總督「アウハル」ノイハガ未亡人ヲ婚取セリ此婦
 人容貌頗ル美ナリ「ボナバル」テ婚媾ノ床ヨリ起テ直
 チニ意太里啞ノ軍戰ニ赴キケリ
ボナバル」テ意太里啞ノ陣所ニ到着スレバ味方ノ兵
 僅ニ五六萬ニ過ギズ至テ危ク見エニケリ敵方ニテ
 ハ「ボナバル」ステンレイ「キ國」ノ兵八萬人「サル」ニ「國王」
 ノ舟手勢六萬人此外ニ精練ノ兵三萬人「法皇」ノ兵三
 萬人「シ」リ「王」ノ兵八萬人以上總テ二十八萬人拂

那察國ノ寄手ヲ防ント備ヘタリ拂郎察方ニテハ軍
中諸事缺乏シ糧食竭ルヲ已ニ久シ每人一日ノ食料
ハ腐敗セル栗子十七枚ヲ給スルノミコノ小手一センノ類
ノ代ニ古キ布片ヲ用ヒ羊皮ニテ足ヲ包ム其上士卒
輯睦セズ互ニ怨恨スル者多シ斯ル疲敵ノ形勢危ク
見エケル所ニホナバルト少シモ患ヘズ急ニ戦ヘト
ソ勇ミケル乃チ申シケルハ吾ガ軍モシ負タバ吾嚮
ニ提ツ所既ニ多シ吾ガ軍モシ勝タバ以テ之ニ尚フ
ルヲナシトトホナバルト軍士等ノ危懼セル者ニ諭告
シテカヲ勵サシメ自ラ士卒ト艱苦ヲ共ニシケレバ
軍士大將ノ智仁ニ感服シテ大ニ色ヲナホシ皆之が

爲ニ用ヒラレントヲ樂ミケリ合戦ヲ始ル少キ前ニ
號令ヲ下ク時兼テ軍士ニ告ケシメケルハ軍士等缺
乏ヲ患ルト勿レミラー子ト意太、里陸ノ一都ノ道已
ニ開ケタリ今ニ諸事不足ナカルベシト合戦已ニ始
リケレバトヲトステンレイキノ兵ハトホセトナル利方
ノ地ヲトリテ陣シ討カミリケレハ味方タマリカ子
テ敗走ス敵ハ勝ニ乘ジテ逐來ル是ハトホナトバルト敵
ヲ飽マデ引寄せテ後ニ横撃セントノ巧ミニケリ第
四月第十一日トヲトステンレイキノ總督拂郎察軍ヲ
モンテトノ傍ニ撃テ大ニコレヲ破リ拂郎察國界
ノ岩モンテトレトキトト云ノ處マデ追來リシガ此岩ニ

テ支ヘラレテ進ムコトヲ得ズ時ニホナバルテガ計策
悉ク敗レ已ニ横撃ニナルベク見エケレ味方英氣
少シモ撓マズ運ヲ天ニマカセテ防戦スモシテレキ
ノノ砦ニハアリガ^テ神隊ノ大將ヲムボウ^{名見前}ノ兵
士千五百人ヲ總テ籠リシガ^テ一ステシレイキノ兵
強ク攻カミリシ時ヲムボウ^{軍士}ニ誓テ云フ此ヲ失
ハンヨリハ寧口城中ノ人悉ク死セヨ^下此誓ニ依テ
城中皆必死トナリテ防戦シタリ^テ一ステンレイキ
ノ兵三度マデ襲懸リシカドモ三度共ニ打返サレテ
退キタリ夜ニ至テ軍罷ミ城中ニテハ明日合戦ノ用
意專ラ見エタリ然ルニ其夜半頃拂郎察ノ大將ヲハ

ル^ハ其軍ノ左翼ヲ以テ後ヲ固メサセナカラ中軍ノ
兵士アル^タレ^レ地^名ヲ越來テ不意ニ^テ一ステンレイ
キノ軍ノ後ト側方トニ攻カミリタリ是ニ由テ^テ一
ステンレイキノ軍頗ルヒル^レシ所夜明テ敵將ベア
ウリ^トウ更ニ新手ノ加勢ヲ得テ^テハル^レト相戦ヒ
兩軍力ヲ極テ桃合ヒ勝負決ヒザル處ニ^ホナバルテ
其大將^ベセ^ナト共ニ各ソノ兵ヲ以テ迅速ニ敵ノ背
ト横ヨリ音聲ヲ發セズ^テ枚ヲ銜テ襲カミリケリ敵ノ
兵士其不意ニ驚キ周章ス拂郎察勢無ニ無三ニ敵ノ
軍中ニ割入テ切立ケレバ敵軍大ニ敗績ス此時又戦
死ノ人^ニノ屍野ニ充タリ是ニ於テ拂郎察既ニ勝利

ヲ得ベアウリーウ大ニ撃レト雖モ猶其軍ヲ整ヘ其
右翼ヲ以テ拂郎察軍ノ左翼ヲ支ヘサセケレバ此戰
果シモ見エザリケリ此時ノ戰敵ノ左右兩翼ヲ引離
シテ相援ルコトヲ得ザラシメ從テ其一方ヲ仰ヘ一方
ヲ擊ツ時ハ勝負乍チ決スベケレ氏敵將ヒ容易ク其
計ニハ落サリケリ斯ル處ヨボナパルテ拂郎察南部
ノ精兵ヲ引寄せ、爰ニ出シケレバ敵方ニテハ兼
テ拂郎察元ヨリ小勢ノ所處ニニテ討死モシケレバ
今ハ恐ルニ足ラズト侮リシニ案ニ相違シテ只今
ノ大軍ヲ見周章斜ナラズボナパルテ尚ホ奇計ヲ運
シ敵軍ヲ討破リ少シモ休息セシメズ四方ヨリ追詰

ニ遂ニシルレシモノ傍ニテ大ニ之ヲ破ル敵兵死
スル者數ヲ知らズ是ニ於テ敵ノ大將プロヘラハ山
城コツセリアニ據テ防戦セリボナパルテ斯ル小勢
ノ敵ヲ相手ニ戦フニ無益ニ思ヒ城ヲ渡シテ去ルベ
シト切ニ申ケレ氏敵將プロヘラ肯ゼズ拂郎察勢因
テ嚴ク攻立ケレバ城中兵ヲ盡メ出テ味方ノ先鋒ヲ
目ガケテ打カ、リケレ氏敵方利ナク夜ニ至テ戰止
ミ翌日ニ至テプロヘラ遂ニ城ヲ味方ニ渡シテ引去
タリ

是迄ノ戰味方ノ右翼ニテ働キテステンレイキノ
軍ヲ破リケレバボナパルテ其夜ノ内急ギ左翼ニ馳

來テ之ヲ下知シ電光ノ如クニザルジニ山ノ軍ニ襲カミル敵軍已ニ敗績シ敵ボルミダ谷ヲ取ラレマシトテ備ヘタルジントヤゴノ兵ヲモ味方ニテ打破リ夕リ然ルニ味方ノ右翼餘リニ勝驕テ敵ヲ輕ジ再夕ビ敵ヲ挑出メ戰ヲ結ビケレバ大二敗ヲ取レリ洞ナバルト之ヲ聞クトヒトシク左翼ヲ棄テ爰ニ馳來リ見ルニ大危急ノ時ナリ味方ノ大將マセナ散兵ヲ集テ敵ニ衝カ、リ三度マデ打返サレタリボナバルト種ニ奇計ヲ出シテ戰ヒケルガ味方ヒルム度毎ニ洞ナバルト自ラ士卒ニ先立テ之ヲ勵シケルニ依テ味方力ヲ得テ遂ニ戰勝チ敵ヲ四方ヨリ追詰打破リテ

ゴヲ取返シタリ此時ノ戰ヒ前夜ヨリ翌日ハツ時ニ連リテ止ザリケリ爰ニ不幸ナルハ味方ノ勇將カウセニ此時四十人餘ノ兵ヲシタカヘテ敵トセリ合ヒ遂ニ敵ヲ打破テ追カケシガ痛手ヲ負テ地ニ倒レタリ此時ボナバルトヲ見テ大ニ悦ビ苦シキ息ヲツギテ曰ハ敵ニ取ラレタリヤ吾ヤト尋レバボナバルト此要所既ニ味方ニ屬セリ患ヘ玉フナト答ヘケレバカウセ重子テ曰クテ曰敵ニ取ラレズバ患ナシ然ラバ吾子折角長生ヘヨトテ息ハ絶エニケリ斯テボナバルトハテーステンレイキノ軍トザルジニ山ノ軍トヲ引離シテ兩軍相救フノ使ヲ奪ヒ猶ヲ

一ステンレイキノ軍ヲバ始終欺キ迷ハシムル手當
 シテ導ガルジニ一軍ヲ合手ニカ戦シ遂ニ之ヲセハ
 名トマンドヒ^{地名}ノ傍ニ迫詰テ大ニ之ヲ撃ツ斬首虜
 數ヲ知ラズ此時拂郎察ノ軍兵等セハノ城中ニ亂入
 シテ人民ヲ殺戮シ殘暴ヲ恣ニシケレバボナパルテ
 之ヲ見テ忽チ味方ノ軍中ニ分テ入テ荒レニアレタ
 ル軍士ヲ制禁シ猶敵人ヲ手厚ク取扱フベキ旨ヲ言
 諭セリ

期テボナパルテハサルジニ一軍ヲ破リ北グルヲ追
 テ其國境ニ入り敵コトニサクヨソ等ノ要地ニテ支
 ヘケルヲ容易クツキヌケ直チニ王都^名トリンニ到

ル此時^名トリンノ敵兵ハ數度ノ戦ニ打負ケ今ハ
 出テ戦フカモナクマタ^名トリン人ハ曾テサルジニ
 一ヲ叛キ拂郎察ニ降ントノ心アレバ一人モ敵スル
 者ナシ爰ニ於テ王ヲ擒ニスルヲ手ヲ及スガ如シ^名ボ
 ナパルテ王城ノ門ニ逼テ大砲ヲ轟シテ劫カシケレ
 バ王ハ恐懼メ爲ン所ヲシラズ大臣故老朝議有テ和
 睦ヲ講スルヲ決シヌサテ使者ヲ以テ其旨ヲ^名ボナ
 パルテニ申遣シケレバ^名ボナパルテ答テ曰ク吾ハ和
 議ヲ講スル爲ニ爰ニ來ラズ汝等ヲ征セン爲ニ來レ
 リ和議ノ^名トハ我與リ知ラズ宜ク吾ガ^名ジレク^名トイレ

按ズルニ^名ジレク^名トイレハ^名慈宰官ノ名ナリ其職四
 人アリ政令ヲ出ス^名トイレハ^名慈宰官ニモ關テ命ヲ將校

ニ傳フト議スベシ吾只兵戰ヲ罷ルノ一事ノラバ與
 ト見ユト云フザルジニノ使者サアラバ兵戰
 リ聞クベシト云フザルジニノ使者サアラバ兵戰
 ヲ罷メ玉フベシ將軍ニ云ミノ利ヲ與フベシト云フ
 ホナハルテ愠テ使者ニ言フ爾歸テ爾ガ官長ニ告ヨ
 佛羅察ノ大將ホナハルテハ左バカリノ利ノ爲ニ兵
 ヲ引去ラス吾明日^五リ^レノ王タランコト難カラ
 ズト

此時ホナハルテ其軍士ニ號令ノ書付ヲ下シテ讀聞
 セタリ是レ一ハ其軍士ヲ勵マサンガタメ一ハ^五一
 リ^レ人ヲ劫カサンガ爲ナリ其辭ニ曰シ
 嗟爾衆士我が師半日ノ間ニ敵ニ勝ツコト六度旗ヲ

取ルコト五十五^七一モ^レン^レノ中其尤大都ヲ拔ク
 數十殺傷一萬餘執虜一萬五千人是レ一二爾ガ功
 ナリ先ニ一千七百九十四年吾レ爾衆士ヲ以テト
 ウロ^レニ^名國ヲ討テ之ニ勝ツ爾等以テ不朽ノ勝軍ト
 爲リ今ノ役ニ此スレバ豈以テ勝軍ノ數ニ列スル
 ニ足ンヤ吾又爾衆ノ艱險ヲ甘ズルヲ嘉ミス爾橋
 ナキニ能ク大川ヲ涉リ履ナクメ荆楚ヲ跋行シ酒
 食ナクメ野臥シ火炮ナクシテ戰鬪ス嗟爾衆士勤
 タリト謂ツベシ夫レ敵兵等モト衆士ヲ侮リ我が
 軍ヲ并吞ヒントハヤリシ者今ヤ震慄シ爾等ヲ見
 テ避遁ス嗟吾ガ諸友軍士功勳已ニ立ツ然リト雖

モイマダ盡サザルモノアリ程一リシラ一子之
ノ二都イマダ我カ手ニ屬セズバセヒルレアル左
スノ二將ヲ殺セルモノナホ敵ノ軍中ニ在リ公等
今一度奮激シテ渠ガ爲ニ仇ヲ報ジ本國ノ耻ヲ雪
加ザランヤ吾ガ出陣ノ初ハ軍中諸事缺乏ニ困ム
今ヤ諸軍富贍不足アルヲナシ糧食ハ敵軍ヨリ奪
フモノ巨萬火炮ノ如キハ尤多ク百度城ヲ攻メ野
ニ戦フトモ勝ゲテ用フベカラズ嗟吾ガ諸友軍士
今我が本邦威ヲ諸國ニ振ヒ大業成就スルヲ爾衆
士ニアリ豈怠ルベケンヤ爾等已ニ大難ヲ試ミタ
リ是ヨリ以往尙ホ力戦シ尙ホ大川ヲ涉リ尙ホ大

都ヲ拔ク昔ニ比スレバ易ミタランノミ嗟吾ガ
勇士孰カ此言ヲ聞テ膽怯シ心碎ケ國家ノ大事ヲ
忘レ同盟ノ難ヲ棄テ西望メ歸ヲ懷フヒノア
ヤ先ニモンテテミルレシモテゴマンドヒ等ノ
諸郡ヲ討取シ時公等國恩ヲ重ジ身命ヲ輕ジ働シ
諸勇士ナレバ今ノ役ニ在テモ何ゾ然フリランヤ
夫レ拂郎察國ノ武德ヲ萬邦ニ赫カシ我が邦ヲ仇
トセル諸國ノ王侯一ニ之ヲ屈伏セシメ功成リ亂
平テ故郷ニ凱歸シ各人ニ向ヒ吾ハ是レ意太里亞
ノ戦ニ出シ者ナリト自讚センコト豈大丈夫ノ願フ
所ニアラスヤ又兼テ諸軍士ニ告グ都テ敵ノ領地

二入ヲ恭逆ノ振舞アルコトナク其人民ハ厚ク之ヲ
扶持スベシ掠奪亂妨ハ固ク之ヲ禁ズ是レ一二ハ
拂郎察國ノ義兵ノ名ヲ塵シ一二ハ戰死セル者ノ
忠義并ニ爾等ガ軍功ヲ徒ニシ又吾等及ビ諸將ニ
恥辱ヲ與フ因テ向後之ヲ犯ス者ハ速ニ刑スベシ
軍士等此誓言ヲ聞テ一統心服シ尙奮激シテ勇戰シ
敵國ニ攻入ントゾ勇ミケル

此時ザルジニ山ノ大將コルリハザルジニ王王ニ使
ヲケミア地ニ遣シテ拂郎察ト和睦ヲ講スルヲ聞ク
ヤボナバルテニ書ヲ以テ兵ヲ罷ルノ事ヲ申越シケ
レバホナバルテノ返書ノ趣ハ今兩軍ノ執案ダ兵ヲ

罷ムベカラス我ガジレクトイレノ拂郎察國爾力王ト
和睦ヲ講スルコトハ吾モ承知及ビタレドレハ慥ナルコ
トモ非レバ吾ニ於テハ未ダ兵ヲ罷ルコト能ハズ爾兵
ヲ罷ント欲ヒバ寧口無用ノ血ヲ濺クト莫シ戰ハ止
ム可ラズトシ

第四日第廿八日ボナバルテハザルジニ山ノ大將ト
兵ヲ罷ルノ事ヲ取結ブレニ會議アリテザルジニ國
ノウチコニトルトナ等ノ諸要地并ニアレキサレト
レア府ヲ拂郎察ニ屬スベキニ定ムボナバルテ重テ
拂郎察軍此度ハレンサ地ノ下ニ於テホト河ヲ渡ル
其敵軍之ヲ支ルコト無ラシコトヲ約セリザルジニ山之

ヲ許ス是ハヲーステムレイキ國ノ大將ヲ欺キオビ
キ田サシ爲ニ此計ヲ設ケタリヲーステムレイキ國
ノ大將此事ヲ聞テ果メ其兵ヲ率テハレンサニ赴キ
トルトナノ下ニ於テホシ河ノ岸ヲ固メ拂郎察軍
渡來ルヲ支ヘタリホナバルテ諸軍ヲ集テホシ河ノ
向岸ニ來リヲーステムレイキ軍ノ固メタル所ト相
對シ煙ミル態ヲ示シテ益ニ敵ノ心ヲ迷ハシメ夜ニ
至テ急ニグレナジール武士ノ名○即チ
拋擲彈兵ナリ三千人馬五
百ヲ以テギヲハンニ城ニ赴キケルガ其翌朝ヒヤセ
シサ地名ニ到ル頃河ノ向岸ニヲーステムレイキノ騎
兵ヲ見ルトヒトシクホナバルテ其軍兵ヲ舟ニ乗セ

テ向ノ岸ニ押渡リケリヲーステムレイキ軍元ヨリ
拂郎察軍容易ク渡來ルマジト思ヒシ處案ニ相違メ
此有様ヲ見テ大ニ周章シテ逃去ヌホナバルテ北ル
ヲ逐テアテ河マデ來リケルガ先ヅ爰ニ止リヌ
此時ホナバルテ又モデ地名ノヘルトグ國
族ト休兵ノ
和睦ヲ結ビタリサテヲーステムレイキ軍ヲ猶追往
クベキノ所ヲーステムレイキ方ニテハアテ河ノ橋
更ニ三十箇ノ大砲ヲ連テ之ヲ支ヘタリ二百丈ニ餘
レル長橋ニ斯ク嚴ク備ヘタレバ中ニ渡ルベクモ見
エザレバホナバルテ諸將ヲ集テ評議シケレハヘル
チール并ニ其他ノ大將モシ之ヲ渡フバ我が軍鑿シ

トナルベシ無益ノト一統不同意ナレバ
忽チ馬ヲ躍ラシテ何程ノ事カアルベキ某先陣セン
繼ゲヤ吾ガ諸友ト橋ニ向ヒ二箇ノ火砲ヲ先ニ立テ
之ヲ頻ニ放サセナガラ士卒ヲ勵マシニ橋ノ中程
マデ進ミテリ味方ノ七率始ハ電光ノ如クナリシガ
敵モカヲ盡シテ防戦シケル故後ニハ大ニヒルム氣
色ニ見エケレバベルチル之ヲ見テ馬ヲ馳ラビテ
繼ゲヤ人ト先陣ニ進拔ケタレバマビナセルホニ
等ノ諸將モ之ニ續テ打出ケリ是ヨリ吾モニト出
ル者多ク遂ニ橋ヲ乗取タリ是レ第五月第十日ニシ
テホ一河ヲ渡リタル其翌日ノ一ナリ是ニ於テホナ

パルテ敵ヲ思フマニニ撃破リチロル地マテ逐ヤリ
ミラト子ニ府ヲ取ルホナパルテ乃チ其土人ニ諭告
シケルハ

嗟大都ノ人衆今吾ガ師爾カ國ニ入り爾ガ都ヲ取
ル因テ爾衆ニ告ルニ不易ノ正道ヲ以テス
夫レ人ハ各相爲ニ益ヲ施スヲ務ムベシ一己ノ
利ヲ求ルヲ勿レ
神ハ唯一神ナリト意得心誠ニ之ヲ敬テ可ナリ何
宗門ナリトモ之ヲ生民第一ノ務ト思フベシ
拂郎察ノゲメ子ベストハ尙後爾等ヲ安全ニセ
ント心ヲ竭ス爾等モ亦自ラ勉テ害ヲ除キステゲ

メー子ベス卜ノ意ヲ助ケヨ

夫レ至善ノ人獨リ衆ノ上タルベシ衆庶ハ能ク相
和睦スベシ此レ和睦ハフレイヘイド見ノ功ナリ
故ニ各死ヲ以テフレイヘイドヲギ守ルベキ也
ゲメー子ベス卜ヲ能ク立ル氏ハ人々安堵メ利益
ヲ得ルナリ然レ氏吁諸士凡ソ大事ハ速ニ成ラズ
今唯其草創ニアリ只儉節良 及ビ能ヲ以テ大闕
ヲ補フノミ

意太里亞總國ホナパルテガ今度ノ勝ニ驚キ是マデ
拂郎察ノ企ヲ破ント勇シ徒今ハ大ニ辟易シ舉ナボ
ナパルテニ降ラントシケリモ一テナ候ハ已ニ兵ヲ

罷ルノ和議ヲ結ビケリ

ホナパルテ第五月第廿日ニ其軍士ニ左ノ號令ノ書
付ヲ申達シケリ

嗟吾ガ軍士爾等既コアーペン子シ山ヲ下ルテ其
勢洶波ノ如シ我が軍ヲ支ル者ハ爾等之ヲ蹴散シ
之ヲ逐拂フ地名ヒーエン地名ハ地名チーステンレイキ國
ヲ叛テ我ト和シヨラレン地名モ亦吾ガ屬下ニ歸ス
是レ一ニ汝ガ功ヲリ吾ガ軍口ムバルデイニ亂
入シ旌旗ヲ其國中ニ翻ス是亦汝等ガ功ナリハル
マモ一テナニ國ノ侯其社稷ヲ全クスルテ爾等カ
惠ニ依ルホ一河ヲシノ州河ハ意太里亞國第

一ノ要害堅固ノ場ナリ爾等爰ニ一日E文ヘラル
、一無シテ敵兵ヲ打破リ渡來レリ右爾等ガ大功
既ニ本國ノ喜ヲ増セリ諸ノ都府ニ於テ凱陣ノ大
祭アリテ爾等ガ功勲ヲ賞譽ス爾ガ父母妻子具榮
樂何如ゾヤ嗟嗚ガ軍士爾ガ功大也ト謂ツベシ然
レモ未ダ悉サミル者アリイザ吾等今一度兵ヲ進
メテ敵ヲ殲シ彼ノ拂郎祭ノビルケレイグ中
軍ノニトルク火ノ名ヲ放チン者吾ガ使者ヲ殺セシ者
「ウロンニ」ラ吾等ガ船ヲ燒シ者共ニ合其仇ヲ報
ズルノ時至レリ時ナル哉時夫フベカフズカピト
トル羅瑪ラヲシテ古ノ形勢ニ復サシメ古川カピ

トールニ勲功ヲ顯ハセシ將相ノ像ヲ公然トシテ
再々ビ其地ニ建立シ數百年間汚染セル羅瑪ノ惡
俗ヲ一洗シテ善ニ復サント皆汝等ガ手ニ在リ拂
郎祭國ノ力ニテ一旦歐羅巴總州ノ太平ヲ致スキ
ハ拂郎祭國天下ニ貴バレ且ツ此六年來失亡セル
人民ノ損ヲ償フニ足ル爾等爰ニ於テ本國ニ凱歸
シ國人ニ傲ルニ足ル豈勉メザルベケンヤ
ホナバルテ既ニシラ子ン府ヲ取ルノ後尙得々ビ
ヲ一ステンレイキ人ヲ逐ヒ往キケリ然ルニ宗音ニ
固執スル文育ノ徒又ハ自己ノ利ノミヲモトスル貪
欲ノ輩ホナバルテカ山行セル跡ニテ人民ヲ欺惑シ

テ拂郎察ノ法ニ背カシムコムバルデイ_中ニテ争
亂一時ニ蜂起シテ拂郎察ヨリ爰ニ遣シ置ケル將吏
ヲ殺ス又ハヒヤ_{地名}ヲ固メシ拂郎察ノ軍勢ニ襲_襲
テ之ヲ窘メケリ

ホチハル_{地名}テ之ヲ聞テ急ギヲーステ_レイキノ敵ヲ
打棄テ軍ヲ返シケルビナス_{地名}ニテ大ニ火炮ヲ打
放シテ拂郎察人ヲ拒ミ頗ル血戦ニ及ビシガ遂ニハ
拂郎察人其地ヲ乗取テ之ニ放火シ張本人ヲ執テ悉
ク之ヲ殺戮シタリ次ニハヒヤニテモ尚拂郎察人ヲ
支テハレザリケレバ_{地名}ホナバル_{地名}乃チミラー子_ノ
ア・ルツビス_{地名}ヲ召テ_{僧官}ヒヤノ及人ニ諭_告ヒ

シメケルハ

汝等奸人ニ惑ハサレテ自ラ罪ヲ取ル今拂郎察ノ
兵ハ此邑人ニ仇スルニ非ズ殘惡法ニ背ク者ヲ誅
ス汝等此一晝夜ノ間ニ甲ヲ解テ拂郎察ニ降り新
ニ盟ヲ申スルニ非レバ悉ク汝等ヲ殺戮_之此邑ヲ
屠ン汝等其是ヲ熟慮セヨト

ハヒヤ人此言ヲ聽カズホナバル_{地名}テ夜明テハヒヤニ
襲ヒカミリ其前軍ヲ破リタリ然レ_レ府中軍衆充滿
シテ猶防ギ戦ヒケリ此ヨリ前敵拂郎察ノ固メヲ破
テ城ヲ乗取リ拂郎察人ヲ俘ニセリ_{地名}ホナバル_{地名}テ煩_煩軍
ヲ前ニ進メ切ニ降参ヲ責ケルニ府人我等此城壁ノ

アラン間ハ降ルヲ肯セズト返答シケリ拂郎察勢
無^レニ集^ルニ敵ノ陣ヲ衝破リ城門ヲ微塵ニ打壞リ夕
リ此ニ於テ城兵散^ルニナリテ或ハ窖中ニ竄レ或ハ
屋上ニ上リテ瓦ヲ擲掛ケ^ニ寄手ヲ防ケドモ寄手
物トモセズ城中ニ亂入シタリホナバルト宣言シテ
吾城ニ近ヅク毎ニ城ニ火ヲカケヨト三度マデ自ラ
命シタリ今一人身ヲ棄テ城ニ火ヲカケ之ヲ燒ク者
アツバ吾其墟ニ柱ヲ建テ之ニ署シテ曰ン昔者此地
パヒヤ府立リト

府ノ^ニシバリテイ^ト城^主火砲ニテ打殺サレ城丹夕
ビ拂郎察ノ手ニ屬ス府人二百人ヲ執ヘテ質トナシ

テ拂郎察國ニ送ヤリタリホナバルト此府人ヲ嚴ク
苛責スベキ處左ナクシテ惟其故本人ノミヲ刑ニ處
シ其他ハ悉ク容シタリ又府中ノ法官ニ命ヲ下メ府
人拂郎察ノ法令ヲ守ルベキ旨ヲ教諭サセ又別ニ其
人ニ告ケルハ拂郎察ノ兵ハ寛仁ト勇武トヲ主トス
吾ガ命ニ從フ都府ハ之ヲ撫スルヲ子ノ如クニシ從
ハザルハ皆ハ之ヲ屠シニスルト

今度ノ爭亂平テ後ニホナバルト其軍陣ニ歸ントテ
ミラ子^レ府ヲ過ギ其城ヲ見物セシニ壁ノ側ニ近
ヨリケレバ敵此邊ニ一隊ノ騎兵ヲ伏セ置テ不意ニ
躍出テホナバルヲ取巻キ已ニ危キ處ニ味方ノ騎

兵幸ニ其近所ニアリケルガ之ヲ見テ急ニ馳ヨリテ
救ヒケリ此時味方ノ騎兵近所ニ在ルヲ無リセバホ
ナパルテ殆ト俘トナリ又ヘキニ運ノ強キ大將ナリ
ケリサテホナパルテ再タビ陣所ニ歸到リヨリステ
ンレイキ軍ヲ逐テチグリヨ河ヲ渉來リ之ヲシ
ヨ河ノ傍ニ撃チチロル_地マデ逐ヤリタリ爰ニ於テ
ヨリステンレイキ人全ク意太里亞國ヲ逐出サレタ
リ
爰ニヘ子チヤ國ノ領地アリケルガ其會治曾テヨリ
ステンレイキ國ヲ援ケ拂郎察國ヲ仇トナシ刺ヘ其
國中ヨリステンレイキニ叛テ拂郎察ノ法令ニ隨フ

者アレバ悉ク之ヲ捕ヘ或ハ之ヲ殺スホナパルテ此
處ヲ通行スル時ニ先ヅ其會治ニ論シケルハ
歐羅巴ノ最美國意太里亞ヲシテヨリステンレイ
キ國ノ虐政ニ免レシメン爲ニ拂郎察國ノ兵遙ニ
ト山川ヲ跋渉メ爰ニ到レリ天ノ寵靈ニ依テ吾ガ
師向フ所克クサルヲナシ今ヤ遠ク逃レテミンシ
ヨ河ヲ越エタリ吾ガ師北ルヲ逐テ圖ラズモヘ子
チヤノ領地ニ至ル吾ガ師豈忘ンヤヘ子チヤト我
ト元相親ミ兄弟ノ國タルヲ今爰ニ至レル宗門
政治風習所領ニイタル迄大切ニ取扱フベシ土人
少シモ心ヅカヒスルヲ勿レ

又軍令ヲ正シテ非法ヲ禁ズ

「マ」ン左ア「巳」ニ攻ラレテ卒死ニナリタレ氏今之ニ用ル火炮ナキ故ニ先ヅ之ヲ棄テ「ホ」ナバルテ此地ニ留ラズ尙「ヲ」ステンレイキ人ヲ逐テ「チ」ロルマテ來レリ第六月第十五日ニ「チ」ロル人ニ諭シケルハ

吾カ拂郎察國ノ大軍遠ク險阻ヲ經テ爰ニ來ルハ是全ク自國ノ私利ヲ求ルニアラス「ウ」ー「ン」府「ヲ」ステンレイ「ヲ」セメテ歐羅巴全州ノ太平ヲ致シガ爲ニ爾等留テ「ヲ」ーステンレイキ國ノ爲ニ一致役メ苦ム「ク」久シ是其國人ノ利ヲ求ルニ非ズ自家一族ノ私欲ヲ逞クスル者ナリ吾カ軍ハ彼等ト大ニ異

ニシテ私利ヲ棄テ廣ク民ヲ救フヲ以テ主トス我が師特ニ爾等ガ如キ山野淳樸ノ民ニ惠憐ヲ加フ今此ニ入ル秋毫モ侵サズ汝等宜ク我ヲ客遇スベシ昔モ亦爾ヲ子愛セン爾等若シ異心ヲ挾ミ吾ヲ仇ト爲テ手向ヒヒバ其家ヲ燒キ其人ヲ殺シ是マテノ例ニ擬セント

「ホ」ナバルテ是等ノ山谷ノ一地方ヲ伐ツニハ大軍ヲ煩スニ及バズトテ其中僅ノ勢ヲ撰テ「ホ」ルグナ及ビ「ベ」ルヲ「ハ」等ノ法皇ノ領ヲ攻テ之ヲ拔キ其地ノ政令ヲ改革シテ悉ク古代ノ法ニ復セシム又「ベ」ルヲ「ハ」ニテ法皇家ノ軍士四百人ヲ俘ニセシカドモ是只宗門ヲ

固執スルヨリシテ法徒ニ屬シタルナレバ深ク尤ル
ニ及バズトテ悉ク之ヲ容シヤリタリ

ホナハル^レ此諸地ヲ平ゲテ遂ニ羅馬ノ都ニ到ル^ル
ウ^法皇^レ之ヲ聞テ大ニ懼レ急ニ和睦ヲ乞ハシム^ルハ
^レ國王モ和睦ヲ乞フ

然ルニ意太里亞國內尙愚昧ニメ宗旨ニ迷ヒ又ハ貪
倂ノ徒アリテホナハル^レニ服セズ拂郎察軍ニ敵對
セント謀ルケニ^アトスカ^レ子^レン^レヒ^レモン^ト等ト界
ヲ接スル帝屬ノ^レロン^ラン^デン^ニ於テ争亂冉々
ビ蜂起シケレバホナハル^レ乃チ兵ヲ差向ケテ之ヲ
平ゲシメ次ニ左ノ令ヲ下ス

帝屬ノ^レロン^ラン^デン^ノ人民等吾ガ盟約ニ背テ
我ニ敵シ拂郎察ノ兵士ヲ餘多殺シ又アルクワタ
ニ置ル拂郎察ノ軍卒ヲ囚フ重ニ不届ノ至リナリ
トイヘドモ其國王ノ催促ニ應ズル所ナレバ是全
ク爾等ガ罪ニ非ズ爾等ガ國王ニ勸テ叛逆セシメ
シ輩コソ罪逃ルベキ所ナレ^レニ探索テ其罪ヲ
糺明シ彼等過ヲ改テ吾ニ服従スルニ非レバ昔^ア
クワタニ於テ見セシ如キ手並ヲ行ハント
主人此令ヲ聞テ大ニ恐レ惶キホナハル^レニ降參シ
子テ盟約ヲ結バン^トゾ議シケル
ナハル^レ此騒劇ノ間モ文學術藝ノ事ニ意ヲ用ル

一ノ忘レズ「ミラー子」ハ「ヒヤ」ニ部ノ官長等ニ命メ
費ノ再建セシメ特ニ「バヒヤ」ノ「ユ」ニヘルシテイト
校ニハ教授會讀ノ廢レタルヲ復興シテ古代ノ如
ク盛ナラシメ又意太里亞ノ諸地ヲ搜索メ古書并ニ
機巧ノ珍器等空ク文盲無智ノ輩ノ玩物タルヲ取出
カシム此頃「ミラー子」ニ高名ノ天學士アリ其名ヲ
「アリ」ト云フ「ミラー子」書ヲ作テ之ニ與テ口ク
夫レ學文ト術藝トハ人ノ智ヲ増シ人ノ生ヲ助ケ
又利ヲ後世ニ遺ス吾ガ拂郎察國當今ノ政藝材ノ
人ヲ尊敬ス「ミラー子」ノ風ヲ察スルニ然ラズ
今ヨリ拂郎察ノ領トナレバ都テ前時ト相異ナリ

學藝アル人隱伏スルコトナシ學士等宜ク自ラ研精
シテ以テ國家ノ大經ヲ禪ルコトヲ勉ムベシ又學士
拂郎察ノ本國ニ居ヲ移スモノハ特ニ尊榮ヲ得ン
拂郎察ニテハ一ノ藝材ヲ得ルコト一國ヲ獲ルヨリ
貴重ス否乎「アリ」ニ此意ヲ以テ普ク國中ノ學社
中ニ告知シラシメヨ
此時「ミラー子」ノ母ハ「トウロ」島ニ在リ「ミラー子」
テノ舍弟「ミラー子」ニ隨テ此處ニ住居シ商估ヲ以テ業ト
ス拂郎察軍大ニ勝利アルヲ聞クヤ急キ意太里亞ノ
陣處ニ赴キ具伯父「ミラー子」ヲ召リセ「ミラー子」ニヨ
リテ一ノ貴官トナル「ミラー子」ハ「ミラー子」ノ舍弟ヲ招テ爾

費用ニ乏キガ爲ニ宮ヲ求メタリヤ費用乏クバ吾我
 ガ祿ノ半ヲ分テ爾ニ與ン爾疾クニ官ヲ辭メ故郷
 ニ歸リ故トノ商估ノ業ニ就ケ反テ天ノ助ヲ得ベシ
 吾ガ一族ヲ以テノ故ニ貴官ヲ得タリト云フノ譏ヲ
 受ンテ口惜キ次第ナリト慙懃ニ教諭シ又伯父サリ
 セチニ嚴ク申談ジ速ニ余ガ弟ノ官ヲ奪テ他人ニ與
 ヘ渠ヲバトウロシニ歸シ遣スベシト有リケレバ伯
 父已ムテヲ得ズホノハルテカ命ニ從ヒ舍弟ノ官ヲ
 召離シ意太里亞ヲ去ラシム舍弟官ヲ取ラレテ意太
 里亞ニ止ルテヲ得ズ然レ氏トウロシニ歸ルテヲ欲
 セズ此ニ於テ拂郎察ノ都バレイニスニ赴キシニステ

ル官ニ依テ再タビ貴官ニ就クホナハルテ之ヲ聞テ
 書ヲ以テシニステルニ命ジ舍弟ガ官ヲ取上ゲトウ
 ロシニ歸ラシム

ホナハルテハ意太里亞國中ノ諸王侯ヲ攻テ之ヲ降
 シ獨マシキアノ城未ダ落ザリケレバ拂郎察勢カヲ
 極テ攻立ケリ時ニチリステンレイキ國ノ大將ウル
 ムセルハ大軍ヲ引率メチロルニ至リマンキアヲ救
 フホナハルテ前ニハウルムセルガ大軍後ニハヨス
 ダノセクガ軍前後ニ敵ヲ受ケ且ツ拂郎察勢ハチー
 ステンレイキ軍ノ半ニモ相當ラヌ小勢ナレバホナ
 ハルテ一ト先ツ圍ヲ解テ退キヌ是ニ於テウルムセ

ルハ「^一」^二左アノ城ニ入リケレバ善キ折ナリトテホ
ナバル^三急ニ^四コスダノセクガ軍ヲ撃テ散ニ^五打破
ル然レ氏ウルムセル^六が大軍近キニアレバ襲來ルニ
違ヒナシトテ其諸軍ヲ一處ニ呼集メ其身ハ味方ノ
兵ノ楯籠テ在ケル^七「^八」^九ノ城ニ衝入テ其城兵ヲ引
分テ^{一〇}己ガ旗下ニ集ント^{一一}ヒシガ敵方ノ使者モ同時ニ
「^{一二}」^{一三}ニ來テ城主ニ降參ヲ勸メタリ此寄手ノ敵兵
ハ四千^{一四}人ニ餘リ城兵ハ僅ニ千二百人ニ過ギザレバ
城中大ニ危懼シ^{一五}己ニ降參ヲ許諾セントシケルニ^{一六}ホ
ナバル^{一七}味方必勝ノ機ヲ察知シテ少シモ畏レズ敵
方ノ使者ノ前ニ召ビ出シ爾還テヨク爾が大將ニ語

レ爾ガ拂郎察軍ヲ嘲弄セントスル^{一八}「^{一九}」^{二〇}ホナバル^{二一}は斯
ニ在リ爾ノ將士擧テ我が擒トナスベシ爾等暫時ニ
甲ヲ脱ギ兵ヲ投ジテ吾ニ降ラバ爾等ガ命ヲ助クミ
シ若シ少シニテモ手向ヒヒバ爾等鑿シトナルベシ
ト云テ側ニ侍リケル將校ヲ呼テ汝起テ使者ノ眼ヲ
扱キヤルベシトテ再々^{二二}使者ニ言フ様使者爾ヨク
拂郎察ノ總督ノ顔ヲ見知テ還テ爾が大將ニ語レ吾
程ナク爾等ヲ擒ニスベシト敵ノ使者此有様ヲ見テ
大ニ驚テ己ガ軍ニ立歸リタリ
夫ヨリ兩軍處ニテ合戦アリケルニ^{二三}イーステンレ
イ^{二四}方ハ凡テ利アラズホナバル^{二五}は此日ノ午後ニ再

父ビ其兵ヲ分チテ數隊トナシ之ヲ處ニコ方ニ配
賦メ陣ノ取ラシメ以テ多勢ノ狀ヲ示ス敵之ヲ實ナ
リト心得テ使ヲ遣メ切ニ和睦ヲ請ハシメ且ツホナ
バルト直談シテ盟誓セシ後ニ「ン左アノ城ヲモ
明ケ渡スヘシト申越シテリホナバルテ承引セズメ
否ニ吾爾ガ大將ヲ擒ニセザレバ飽カズトテ急ニ投
石ト火炮トヲ驟シク放タシメテ敵將ヲ目ガケテ襲
カミラシム敵將大音ヲ揚テ我等舉テ降ルベシ宥シ
玉ヘト呼ハリケリ是第八月第四日ノ「ナリ其翌第
五日ニハ「ボナバルト敵將ウルムセルト對陣ス此時
ウルムセルガ陣所ハ味方襲フニ甚不便利ノ場所ナ

レバ「ボナバルト敵ヲ詭テ誘奇スル計ヲ設テ先ヅ敗
走スル體ヲ示ス敵虛敗ナリトハ露知ラズ實ニ已勝
チタリト大ニ喜ビ大にウルムセルソノ年ノ右翼ヲ
進メテ味方ニ衝カミラントス「ボナバルト兼テ敵ノ
左翼ノ押ヘトシテ差向ケ置ケル一隊ノ軍ニ示シア
ハセテ右翼ノ後詰ヲ定メオキケルカ敵ノ右翼程ヨ
キ處マデ進ミキタリ後詰ノ兵ヒ示合ヒシ場所ニイ
タルヤ否ヤ「ボナバルト急ニ敵ノ右翼ヲ撃ツ後詰ノ
兵又其後二回リテ前後ヨリ夾ミ撃テ大ニ之ヲ破リ
遂ニウルムセルヲ走ラシメテ「ンシヨ河ノ小ニ逐
ヤリ其他ノ將士ヲ餘多擒ニシ尚リノ殘兵ヲ「チ口ル

ノ山ニ迫リテ之ヲ撃チ終ニ^カン^テア^レ城ヲトリテ拂
郎察ノ領ト爲ス^ホナ^ルテ命ヲ將士ニ下シテ曰ク
爾等今度ニ夕^ニ意^ニ太^リ亞^ヲ會^ヘリ五日ノウチニ兩
度戦ヒ五度敵ノ襲撃ニ克タリ虜一萬五千人火砲ヲ
取ル^ル八十火藥車ヲ取ル^ル百旗ヲ取ル^ル五先キニ
ロ^ロデ^ロナ^トカ^スチ^グリ^オ子^等ニオ^キテ^克タル事
士ハ今度ノ役ニ比スレバ^タニ^襲撃^チノ^小技^ヲノ
ミ致シヤリト謂フベシ今度爾等^マラ^タシ^及ビ^テラ
夕^ト^{共ニノリ}^{原語列ニ}^{蓋シ}續^グコトヲ爲シタリ其
上意太里亞ニ在ル軍ノアリガ^レト^陣隊^ハ古^ヘギ^ル
シヤノ勇猛ナル軍勢ノゴトク萬代ニ稱ヒラレテ不

朽ノ譽レヲ受クベシト云リ

那波列翁勃納把爾的傳卷一終

那波列翁勃納把爾的傳卷一終

邦波夕第个
卷一

三十五



